

三度の乞所有と可知、眞行臺子、眞長板の定法、運茶湯に用ル事也、茶椀一覽の内、釜のふたをとり、水指の蓋を取、茶碗返るを相待申候は、四方盆眞行の作法と知べし、段々臺子立、前に記す故略之、亭主勝手へ水さし取入、勝手口を立、茶入、茶杓袋返りを相待也、客道具見終、勝手口障子際、又は釜臺の眞中へ三品持寄、亭主取能様に、茶入はわが左の方、袋茶杓は我が右の方に、袋の上に茶杓を載て返し申候、亭主取に出申時一禮して、後の炭所望申事也、いにしへは薄茶前の炭とて所望なしに炭を置足し、薄茶の道具を持出、うす茶立仕廻、其上にて立炭所望仕候、當世は二度目の炭にて相濟、客座鋪へ通り申事に罷成候、今も後の炭濟て、薄茶の道具運び出し、茶を立申方も有之候、京都にてはいづれも右の通の仕かたに候、古法の殘て面白く候、

濃茶

〔南方錄〕亭主出て挨拶して茶を點する事

作用差排ての次第は爰に略之

客坐入、床臺目見畢、坐につきたらば、茶堂口を大羽帚にて三ツ五ツ拂、開出て御茶可致よし、軽く挨拶し、手前に取つくべし、

客前へ茶出す法、客茶を喫する法、

帕物をかき疊に出し、其上に茶盃を置べし、茶碗の前後心得て出すべし、帕二ツ目の折を客前へなして出す、客茶盃帕共に受取て座中へ出し、各茶の色を寄て見る、扱賞客受取て、小指を帕よりはづし、茶盃の臺脇に付て吞べし、茶香を心づけこぼしかた心得吞べし、逆勝手の時は、右の手にて茶盃をこぼす、去によりて客前へ出す時、茶碗の前を客前へなす事云に不及、こぼしかた客の左にいる、客請取逆に廻し、左のかたこぼし方より吞む、戻す時、茶碗の前を主の方になし、こぼしかた主の左にして戻す也、總而向爐風爐の時は、茶盃を戻し、亭主茶碗を請取んとする時、禮すべし、四疊半臺目かきの爐は、茶碗受取、下に置たる時に禮してよし、主茶碗受取、茶の香をかぐ事大